

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400209		
法人名	社会福祉法人 若宮福祉会		
事業所名	グループホーム すばる竹田園		
所在地	大分県日田市竹田新町2番33号		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 4/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=44

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人のこども園と連携し、こども達と触れ合う機会を多くつくり、利用者の生活の活性化や、新しい生きがいを生み出せるように支援している。
その人らしさを大切に、自立した日常生活が送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・市街地にある住宅地の中にグループホームは建っており、駅やバスターミナルにも近く、交通の便が良い。
- ・同法人のこども園との連携で、園児とふれあう機会を多く作り、利用者の新しい生き甲斐や楽しみとなっている。
- ・職員が丁寧に利用者に寄り添い、それぞれ思い思いに自分らしく笑顔で過ごしている。
- ・管理者は職員の話をよく聞き、チームワークが良い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員会議等で再確認し、職員一人ひとりが実践につなげられるように努めている。	目配り、気配り、心配りをモットーに、いつでも手が届くサービスの提供を実践している。職員会議で理念が共有できているか振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の情報をえられているが、開設時からコロナウイルスの影響で、地域の活動が減っている状況であった。地域行事に参加したいと考えている。同法人のこども園との交流はできている。	自治会に加入し、地域の行事に参加することを考えているが、開設時からコロナ禍で実践できていない。同法人のこども園とは卒園式に贈り物をしたり、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域支援推進員に講師を依頼し、地域の人を招いて認知症をテーマにした研修会を予定していたが、コロナウイルスの影響で開催を中止した。地域におけるケアの拠点として機能していけるように活動を検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期開催し、活動内容や状況の報告、課題に対する取り組み等の報告を行っている。それらに対して意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている。	2か月に1回の運営推進会議は、コロナにより2回を書面で行なった。あとは参集し、事業所の取り組みや事業報告を行っている。時節柄、家族の面会を制限している状態なので家族の推進会議参加は実現出来ていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に出席を頂いており、情報交換ができています。日頃からサービス提供に対する疑問等にも対応して頂いている。	開設して間もないグループホームなので、地域とどうかかわっていけばいいかななどを市に聞いている。ゴミ拾いやパトロールなどの自治会活動はまだだが、できる限り早く取り組みたいと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について園内の勉強会を行い、理解を深めることができたのではないかと思います。身体拘束廃止委員会を定期開催し、拘束が行われていないか確認できている。会議録を回覧し職員全員に周知を図っている。	内部研修で、身体拘束の弊害を学んでいる。家に帰りたいと出ていく人がいるので時間帯によっては施錠し、非常口の開錠予防も厳重にしている。職員によるスピーチロックはなく、上手に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての園内の勉強会を行った。声かけの仕方や、身体の観察など意識して行い、虐待防止に努めている。		

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について園内の勉強会をおこなった。現在そのような制度を利用している利用者はいないが、必要と考えられる利用者がある場合は活用できるようにすすめていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書やパンフレットを用いてサービス内容や料金等の説明を行っている。疑問点があれば都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の案内をしている。少なくとも半年に1回は計画の見直しを行い、本人家族と面談し意見、要望を引き出せるようにしている。要望等があった場合は、朝礼での報告や伝言ノートを活用し、共有を図り、改善に向け検討している。	契約時に家族から、娘の名前を忘れないように毎日名前を告げてほしい、体調が悪くても言わないので気をつけてやって、という希望に添って、職員に個別の対応をするようミーティングで確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の朝礼等で、意見や提案を出せる機会を作っている。全職員に対して年に2回、ヒヤリングが行われている。	職員の意見や提案を出してもらい、玄関マットが滑りやすいので交換するなどの改善を行っている。年に2回、理事が職員の希望や改善点を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一律の評価ではなく、個々で評価し、処遇への反映が行われている。本人と協議し、労働時間や条件など、働きやすい環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時の法人での研修や園内の勉強会など研修の機会を確保している。外部の研修にも積極的に参加をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦でのオープンとなり、連絡会には参加しているが、その他同業者と交流する機会がなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に情報収集し、職員へ共有を図れている。少人数のケアの為、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、安心確保に向け支援できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に面談を通して、現状の把握や要望や困りごとをきき、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにより他のサービス利用も含めた、必要としているサービスの計画(ケアプラン)に努めている。 ケアプランに沿ったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タオルたたみや食事の準備、片付けなど、本人ができることはやってもらい、できない部分だけを介助することで、介護されるだけの生活ではなく、利用者の自立と暮らしを共にする関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や、オムツ類の購入など、家族で対応してもらえるものはお願いし、また、少なくとも月に1回は近況を報告し、関係が切れないように共に本人を支えていく関係が築けるように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた美容室やスーパーなどを優先して利用してもらい、面会や外出で関係継続に努めている。	今までの美容院や衣料店などに家族に連れて行ってもらったり、受診もできるだけ家族に連れて行ってもらうなどの働きかけをしている。家族から事業所への電話も取り次いで利用者に出してもらう。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など利用者同士の関係を考えて対応できている。職員が間に入りコミュニケーションを図ったり、工作など一緒にできることを提供し、孤立せず楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談に応じている。他の機関へ移る場合は、ケアで工夫していたことなどを含めた情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らしや、現在の本人の状態、想いを把握し、できる限り本人の望む暮らしの支援に努めている。一人ひとりの気持ちを大切にしている。	開設して間もないグループホームなので家族の話などから生活歴を知り、普段の会話の中から思いを把握して、知り得たことは伝言ノートに記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していた事業所や家族から情報収集し、更に家族には以前の暮らし方についてシートの記入をお願いし、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録で情報共有と、現状を把握し、支援をつないでいくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年ごとの評価を介護職員が実施し、その意見を計画作成担当者が計画に反映している。日々の状況を把握し、必要があれば計画を見直している。計画を家族に説明し、意見、要望を計画に加えている。	利用者本人の状況と暮らしの希望を知り、課題を介護計画に反映させるようにしている。家族にも相談し、変化があれば見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の観察、現状の把握に努め、気になる事や、伝達が必要なことは、記録や、伝言ノートに記入して情報を共有し、朝礼等で都度話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて適宜対応方法などを検討し対応している。個人的な買い物支援なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前の暮らしを把握し、利用できるものは継続利用してもらい、状況に応じて適切な機関へつなぎ暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関から医療を受けてもらっている。かかりつけ医の変更はお願いしていないが、通院が困難となってきた場合は、かかりつけ医へ相談の後、訪問診療を行っている病院への変更を提案している。	本人家族が希望する医療機関での受診ができています。緊急でない場合は、月に一度の訪問診療も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきを看護職員へ報告し、適切な対応がとれている。状況に応じて受診の支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、入院先に情報提供を行い、入院中は面会が可能であれば面会し、できない場合は相談員や看護師から情報を得ている。退院前にはサービスの見直しを行っている。得た情報は報告、伝言ノートを利用し、共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時と状態が悪化した際などに再度、施設で可能な対応を伝え、必要があれば他の機関への移行等を支援している。	重度化については、家族に入居の際に話し合いをしているが、看取りは行わず、重度になった場合は移設を勧めている。それらの書類は整備されておらず、取り交わしていない。	高齢者においては急激に重度に至ることもあるので、家族への説明・話し合いと、関連書類の整備を行うことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手順はあるが、全ての職員が実践力を身につけられてはいない。定期的な研修、訓練の継続が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所や水害の際、同法人のこども園への避難の可能性も共有できている。研修や訓練を通して、火災、地震、風水害など、状況に応じて避難場所等の周知を図っている。	火災、地震、風水害の避難場所は母体法人のこども園となっている。防火の訓練は年に2回行っているが、消防署立ち合いの訓練となっていない。	年に1回の消防署立ち合いの避難訓練を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあわせた声かけや対応に努めている。人生の先輩として尊敬した言葉遣いや接し方に気を付けている。	職員の利用者への対応は丁寧で、プライバシーにも配慮して尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声かけや、訴え等を傾聴し、尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どう過ごしていいかわからない利用者がいたり、リズムを作る為にも、朝集まって体操を行っているが、参加は強制していない。入浴や排泄の声かけも、その時に応じて時間や日を改め対応し、その人のペース、その日の状態に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族が選んだ服を持ち込んでもらい、着てもらっている。化粧水をつけるタイミングなど、これまでの習慣を続けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みなどを把握することができており、食事の準備や片付けなど、できる作業を行ってもらうことができている。その日の状態によって、できる日、できない日がある方もいるので、柔軟な対応に努めている。	利用者の食べたいものを聞き、月に2回くらいホットプレートと一緒に作っている。できることは手伝ってもらうが、現在、コロナ禍で盛り付けなどは行わず、茶碗拭きをする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、不足しないように声かけや、一人ひとりに合わせて提供の仕方を工夫できている。水分量が少ない方には家族に好きな飲み物を持ってきてもらったり対応を都度検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が自分でできるように声かけし、できない場合は支援を行い、状態観察と清潔の保持に努めている。		

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を活用して排泄のパターン等を把握し、適宜支援ができています。トイレでの排泄を基本とし、状態の応じて対応を検討して支援ができています。	排泄パターン表を利用して声掛けをし、トイレの使用を行っている。夜間はポータブルトイレ、オムツの人もいるが、よく寝ていると交換はしないなど、状況に応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日運動の機会をつくり、飲食物の工夫と水分量の把握と促しを行っている。薬の処方がある方は、看護職員と相談し、便秘にならないように利用者に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安の曜日、時間は決めているが、入浴の間隔が空きすぎないように注意して、希望に合わせて入浴の支援ができています。	週に2~3回、午後に入浴をする。嫌がる時も間隔を空けないように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて休息を勧めたり、夜安眠できるように支援ができています。室温、湿度に注意し、気持ちよく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情を管理して適宜確認できる状態にしている。薬が変更になった場合は、職員に周知して様子観察ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことやスムーズにできることなどを中心にして活動を促し、居心地よく過ごせるように支援している。気分転換ができるように支援を検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出の行事はあまりできていないが、家族との外出などを実施できるように支援ができています。行きたい所へ行けるように家族に協力を求めたり、実現できるように働きかけている。	現在、コロナ禍で事業所としての外出の機会が少ない。家族との外出はできるように支援している。散髪やかかりつけ医への受診は家族にお願いしている。ウッドデッキでお茶を飲んだり、隣接の小規模多機能との行き来は行っている。	

事業者名:グループホームすばる竹田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて本人にお金を所持してもらっているが、居室など、手元に所持する金額は上限を決めている。上限を超える金額は金庫で預かり、適宜使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば随時つないで支援している。家族から電話で話したいという希望にも応じている。手紙のやりとりも自由に行える。状況に応じて支援できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、温度、湿度にも注意している。作品を飾ったり、季節感ができるように工夫できている。居室は本人の好きな位置に物を配置している。	新しい建物なので清潔に片付けられており、飾り物も季節を感じさせる。温度や湿度はこまめに気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や利用者同士の関係に配慮し、席の位置を工夫している。ソファの配置にも気を配りゆっくり過ごせる空間づくりに努めている。天気がいい日はテラスを活用し、おやつを食べたり、気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具など使い慣れたものを持ち込んでもらうようにし、居心地よく過ごせるように努めている。	開設時からコロナ禍にあり、その後の家族の訪問が少ないなどの事情もあって居室の私物が少なく、写真などもあまり飾られていない。徐々に整えていくとのことである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗剤や消毒液の置き場に配慮し、トイレなどの生活動作が安全に行えるように努めている。洗濯物たたみや、食器の片付けなど、その方ができる活動を促し、自立した生活が送れるように努めている。		